

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.27

11月1日。何の日かご存じですか？2008年、「源氏物語」ミレニアム（千年紀）を記念して創られた記念日、「古典の日」です。時空を超え今に生きる「古典」の面白さ、奥深さを紹介します。



『今昔物語』 日本最大の説話集！

「今昔物語」多くの文豪たちも愛してやまない、日本を代表する説話集（人々に語り継がれた話。神話、伝説、民話など。）です。特に、芥川龍之介は「今昔物語」に材を得て、数々の作品を世に送り出しています。例えば、「羅生門」「鼻」「芋粥」など。もちろん、それらの作品も興味深いですが、その元となった、「今昔物語」もまた、奇想天外な話が多く、その豊かな想像力に引き付けられます。その中から一つ。陰陽道の大スター安倍晴明が操った恐るべき呪術…「安倍晴明、忠行にしたがひて道を習ひしこと」では、若かりし頃の安倍晴明の活躍が描かれています。陰陽道の師匠が熟睡中、恐ろしい形相の鬼に襲われそうになります。それをいち早く教えた晴明。すると、師匠は、我が身も、従者の姿も全て消してしまいます。どうですか？こんなことが、さらっと書いてあるのです。古典の世界は、まるでSFのようです。また、

『日本霊異記』 日本最古の説話集！

日本最古の説話集「日本霊異記」。中の話の題名を見てみると・・・。「雷をつかまえる」「わしにさらわれたむすめ」「かにの恩がえし」「カもちの女」などなど。どうですか？「古典」は難しい、そんなイメージを覆す、そんな話が並んでいませんか？文法が、とか、古語がとか、そんなことより、ぜひ、「丸ごとの古典」を楽しんでみてください。図書室では、コミック版、初心者向けのもの、様々なスタイルの「古典」があなたをお待ちしています。

『これで古典がよくわかる』 橋本 治

これは、古典を愛してやまない作家、橋本 治さんが、「源氏物語」「枕草子」をはじめ、名だたる古典を愉かにひも解く一冊です。もちろん、現代文ですので、入門編として挑戦してはいかがでしょうか？それぞれの話題は、1、2ページと短く、読み物として非常に面白い本です。例えば、「物語」は、すべて「むかしむかし」で始まる/『源氏物語』は複雑な少女マンガのようなもの/源実朝は「おたく青年」の元祖/いたって大胆な、ハシモト式古典読解法・・・。何しろ、橋本先生、その昔「桃尻語訳枕草子」という大胆な本を出版し、一大ブームを作ったお方です。そうですよ、皆さん。後世に残るからには、残るなりの理由があるはず。そして、その大きな一因は、「面白い」からに違いありません。筋が分かれば、その面白さにはまること間違いなし！はまったら、声に出して読みたくなること、さらに間違いなし！どうぞ、「古典」に高い壁を作らず、
・穴を掘る・飛行機で・はしごを使って…乗り越えるやり方は様々です。いろいろなアプローチで楽しんでくださいね。

